

宇佐神宮(宇佐市)

宇佐神宮の境内図/宇佐神宮は、八幡神こと応神天皇を主祭神とする、全国4万600社の八幡神社総本宮である/図下の神橋を渡って下宮本殿の前で左折、上宮本殿へと進む！



ここが神橋/左手の標柱に「史跡 宇佐神宮境内」とある

 [video](#)



少し進むと、大鳥居が立っている



この先が下宮本殿



その手前を左折すると、ここにも鳥居が立っている

[video](#)



その先の石段を登って進む



この辺りは「宇佐神宮社叢」として国指定天然記念物になっている

「宇佐神宮社叢」

国指定天然記念物

この御山は亀山、また小椋山とも称し、森の大部分はイチイガシ（二位檜）、クスノキを優占種とする常緑広葉樹林ではば自然の状態に残されている。高木層、亜高木層、低木層はほとんど常緑樹で占められているため、四季を問わず緑深い神域が保たれている。

イチイガシは常緑広葉高木で、樹高二・〇mに達し幹の直径が一・五mになるものがある。樹皮は灰黒褐色であるが、皮目が多く薄片となつてはげ落ち波状の模様が残る。葉には鋭い鋸齒があり齒の表面は光沢があるが下面は黄褐色の短い毛が密生している。他のカシ類と同様に堅果（どんぐり）が出来る。

また、鳥居が見えて来た



この鳥居は大分県指定有形文化財の八幡鳥居

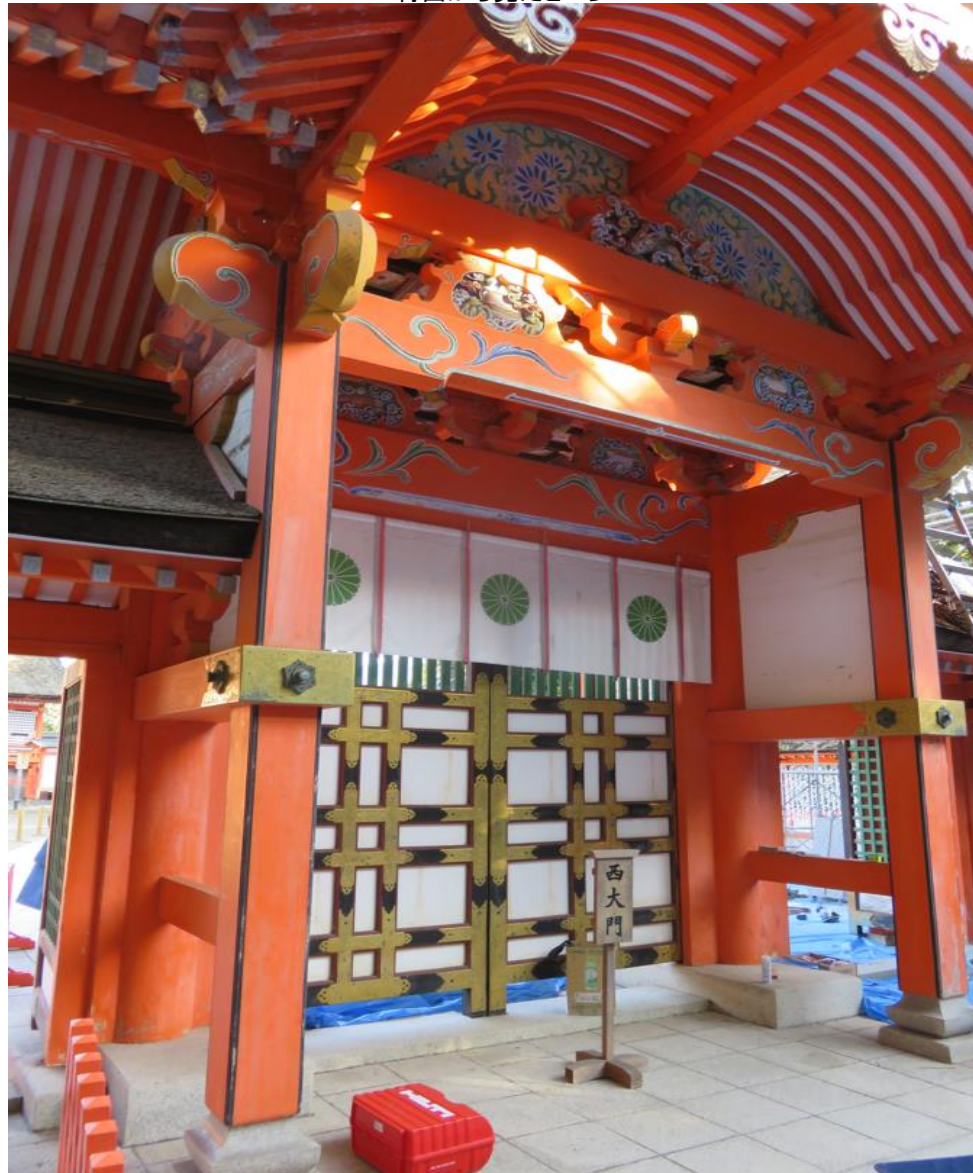


正面は西大門/大分県指定有形文化財/安土桃山時代の建立/保存修繕工事中のようだ

[video](#)



背面から見たところ



社殿の中央に鎮座する本殿は、八幡造と呼ばれる古い様式を今に伝える貴重な神社建築として国宝に指定されている



この地を治めていた宇佐氏の磐座信仰に渡来系の辛嶋氏が道教・仏教を持ち込み原始八幡信仰が誕生、さらに大神(おおが)氏が応神信仰を融合させて、八幡信仰が成立したという/国東半島に広がる神仏習合の山岳信仰・六郷満山文化と深い関わりを持っているとされる

宇佐神宮

御祭神 一の御殿 八幡大神

(応神天皇)

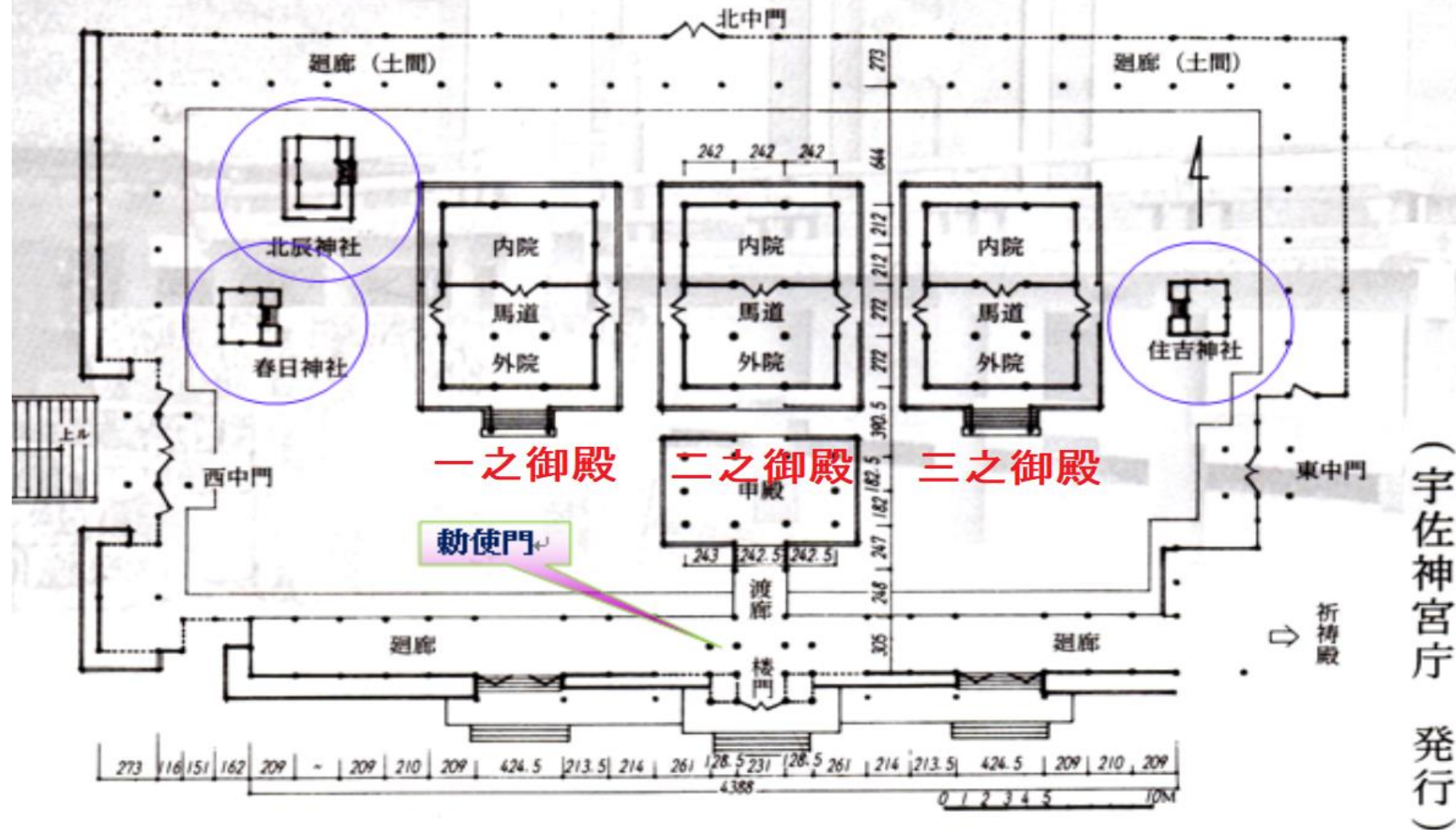
二の御殿 比賣大神

三の御殿 神功皇后

宇佐神宮は全国八幡社の総本宮、勅祭の大社であり、伊勢の神宮につぐ宗廟、我朝の太祖として歴代天皇より篤い御崇敬を受けています。また、私たちの祖先は全国各地に宇佐の八幡宮をお迎えして、氏神や鎮守のお社としました。

神代に三神の比賣大神がご降臨されたこの宇佐の地に、約千四百年前の欽明天皇三十二(五七二)年、応神天皇のご神霊がはじめて八幡大神としてあらわれ、各地をご巡幸後、この亀山にお鎮まりになりました。のちの弘仁十四(八二三)年、応神天皇の御母君であられる神功皇后をお祀りし、三殿のご鎮座となりました。

宇佐神宮の社殿は、奈良時代の神亀2年(725年)に一之御殿が、天平元年(729年)には二之御殿が、弘仁14年(823年)には三之御殿が造営され、現在に至る三殿形式となったという/祭神は一之御殿が応神天皇、二之御殿が比売大神、三之御殿は神功皇后(応神天皇の母親)



宇佐神宮社殿配置図

宇佐神宮の本殿は、向かって左手が一之御殿、正面が楼門（勅使門）の二之御殿、右手が三之御殿で、その周囲を回廊が巡っている

[video](#)



そこで、左手に一之御殿の拝所方向を見たところ



同じく、右手に三之御殿の拝所方向を見たところ



左手から一之御殿、二之御殿、三之御殿の拝所を見たところ



二之御殿の楼門(勅使門)



禅宗様の木鼻か・・・



二之御殿の拝所から三之御殿方向を見たところ



一之御殿/本殿はいずれも切妻造平入の建物二棟を前後に並べ、それらを相の間で連結し、周囲に縁を巡らした構造の八幡造/現在の宇佐神宮本殿は、最後に造替が行われた際に建てられたものであり、一之御殿が万延元年(1860年)、二之御殿が安政6年(1859年)、三之御殿が文久元年(1861年)の建立



そこで、右手に二之御殿方向を見たところ/本殿の規模は、内院が桁行三間に梁間二間、相の間は桁行三間に梁間一間、外院もまた桁行三間に梁間一間



三之御殿(右手)の拝所から左手に二之御殿方向を見たところ/式年造替によって定期的に建て替えられており、古代より建築技法が変わる事無く受け継がれ、今でも当時と変わらぬ古い様式を残している/社殿の内部には、相の間(馬道)の横に設けられた扉から入る/相の間の手前が外院、奥が内院



祈祷殿



なお、社殿の中央に祀られている二之御殿の祭神は比売大神で、これこそが宇佐神宮の主祭神であり、宇佐神宮本殿のある亀山の頂上が比売大神（卑弥呼に比定）が眠る墓（古墳？）との説がある/付近では石棺が出土しているという話や、百余人を殉葬したとされる百体神社があるというが、真相は如何に・・・

